

(2) 今月のキーワード 「リユース消費」

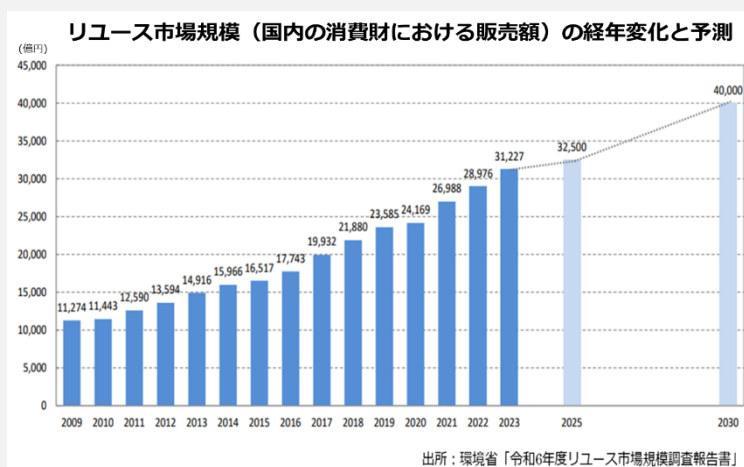
環境問題への関心や物価上昇を背景に、消費者が新品ではなく中古品を積極的に選ぶ傾向が広がっており、「リユース消費」が注目を集めています。家庭に眠る「かくれ資産」の存在や訪日客による需要から市場拡大が期待されますが、模倣品や取引トラブルといった課題もあり、健全な成長への対策が求められています。

【市場規模の拡大とその背景】

環境省の報告書によると、日本のリユース市場は2015年には約1.6兆円規模でしたが、2023年には3.1兆円に達しました。さらに、2030年には4.0兆円に拡大すると見込まれています。

近年のリユース消費の拡大には消費者の意識変化が影響していると考えられます。一つは、物価上昇により消費者の節約志向が高まり、新品に比べて安価なリユース品が選択されてきている

ことです。同時に、不要品を売って生活費の足しにしたいニーズも生まれており、市場を拡大させていると考えられます。もう一つには、「エシカル消費」「サステナブル消費」といった、環境や社会に配慮した商品・サービスを選ぶ消費行動への注目があります。リユース消費はまさにその代表格であり、資源を再利用することで廃棄物を減らすという「持続可能性を意識した消費」がスタイルとして確立されてきています。リユース消費は単なる節約ではなく、「環境配慮」「社会的意義」と結びついたライフスタイルへと変化しています。



（出所）株式会社メルカリ プレスリリース「2023年版 日本の家庭に眠る「かくれ資産」調査」 国民一人あたり「かくれ資産」は平均約53.2万円、年末年始の大掃除で捨てる予定の不要品の資産価値は平均8.5万円相当に

【かくれ資産と外国人からの関心】

（株）メルカリが2023年に実施した調査では、日本の家庭に眠る「かくれ資産」の総額は推計約67兆円であり、1世帯あたり約110.6万円とされています。日本にはまだ市場に流通していない大量の「かくれ資産」が存在しており、今後、リユース市場のさらなる拡大が期待されています。

また、市場拡大の牽引役として比重が高まっているのがインバウンドを中心とした外国人需要です。使用状態が良く、専門スタッフなどの正確な査定評価により偽物が少ないことから「ユーズド・イン・ジャパン」（日本で使用）や「チェックド・イン・ジャパン」（日本で鑑定）などとして高く評価されています。

【今後の市場拡大には更なるリスク対策が不可欠】

拡大を続けるリユース市場ですが、詐欺や模倣品が増えることで信頼を損ない市場が縮むリスクも孕んでいます。盗難品や偽造品・模造品が流通する可能性があるほか、ネット取引で代金を支払っても品物が届かないなどのトラブルも耳にします。

業界では人工知能（AI）技術を用いた査定などの導入も進んでいるようですが、正確な真偽判断の仕組みや詐欺を防ぐ更なる対策をどのように構築するかが今後も市場が成長を続ける上で重要になるでしょう。